

## 第9章 昭和59年度山口大学構内の立会調査

### 第1節 吉田構内の立会調査

#### 経済学部樹木移植に伴う立会調査

調査地区 経済学部構内 K-19・20区

調査期間 昭和59年11月8日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約8㎡

調査結果 立会調査は植樹の行なわれる経済学部A棟西側3地点、大講義棟西側1地点で実施した。なお、第2地点は昭和60年度樹木移植予定地であるが、今年度一括して立会調査を実施することによって、調査および工事の円滑化をはかるとともに、周辺地域における今後の現状変更を伴う工事に対する資料の集積の一助とした。

調査は工事基底面である現地表下60~70cmまで土層の堆積状況、遺構、遺物の有無を観察した。その結果、各地点とも腐触土および構内造成時等の置土(攪乱土)の堆積がみられ、遺物包含層、遺構等は認められなかった。

しかし、第4地点攪乱土中に昭和55年度に実施した大講義棟新営に伴う事前調査の際、旧耕作土下で確認された自然堆積層である青灰色砂礫土がブロック状に堆積、混入している状況が観察された。したがって、当該地域周辺では、大学統合移転に伴う造成工事等により旧耕作土下部までおよぶ削平が行われたものと理解することができる。削平の南北および東への範囲は未だ不明であるが、西側では柱穴、旧河川跡の検出された教育学部技術科・美術科実験実習棟付近までは及んでいないものと考えられる。(河村)

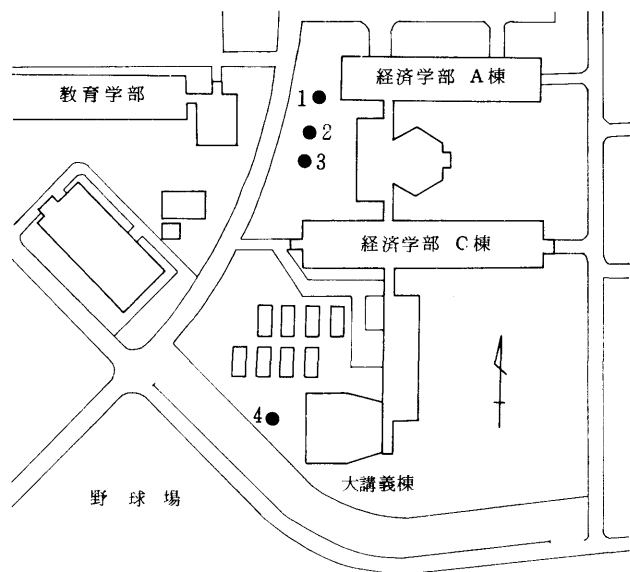


Fig. 32 調査区位置図